

平成二十八年度 秋季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「秋」

期間 平成二十八年八月一日～平成二十八年十月末

投句数 一、九一七句

特選三句

天

大仏の瞑想永遠に天高し

神奈川県横浜市青葉区 小池 とも子

地

石垣の萩こぼれつつ盛りなり

東京都渋谷区 小熊 紀子

人

どの道も海まで抜けて凌霄花

千葉県松戸市 山本 新

入選句

一般の部

一本のたわわの柿も寺の景

東京都武蔵野市

池田 章子

白蓮の風を賜る谷戸の寺

東京都大田区

荻野 操子

路線バス祭囃子に迎えられ

東京都墨田区

沖本 礼子

鎌倉の五山一位の松手入れ

神奈川県横浜市旭区

加瀬 伸子

長谷寺やこぼれし萩の影の濃し

群馬県藤岡市

小林 玉枝

天高し長谷の大仏拝しけり

東京都品川区

齊藤 興志子

鎌倉に丸いポストや天高し

神奈川県横浜市港北区

鈴木 基之

踏み窪む鎌倉石や葛の花

神奈川県横浜市戸塚区

高橋 央尚

秋扇虚子の墓前に使ひけり

東京都町田市

竹内 弘

水音につつまれてゐる流灯会

神奈川県横浜市港南区

田阪 武夫

文学館テラスに望む秋の海

埼玉県比企郡

田沢 和子

青空に大仏おわす花すすき

埼玉県比企郡

田沢 保男

法堂へ日射しやはらか秋日和

大阪府大阪市東住吉区

西川 好子

木の実落つ音にはじまる寺の朝

神奈川県三浦市

秦 孝浩

白はちす実朝祭を彩りぬ

神奈川県横浜市戸塚区

原 和三

由比が浜雲たひらかに夏の行く

奈良県奈良市

星 愛美

江ノ電の菽の陰からあらはるる

神奈川県茅ヶ崎市

水野 秋夫

雨音に打ち消されゆく残暑かな

山梨県甲府市

村田 翔太郎

きざはしの菽かき分けて海蔵寺

神奈川県逗子市

森澤 謙二郎

木の実踏む鎌倉山の仏道

神奈川県横浜市青葉区

山下 省三

(順不同)

入選句

子どもの部

あかとんぼくらきこうえんとんでいた

神奈川県横浜市港南区

今井 健太

天高く雲をつかみし大仏だ

京都府京都市中京区

笠原 福人

大仏も思わず眠る残暑かな

東京都東大和市

北村 隆之介

急がなきや家で我待つ栗ご飯

神奈川県川崎市中原区

佐藤 彩乃

どんぐりやどんどん木から落ちてこい

神奈川県川崎市中原区

佐藤 功一

ひさびさのかまくらあるきなつやすみ

福岡県嘉麻市

杉内 千夏

新しき友とゆく秋鎌倉路

山梨県南巨摩郡

千月 ゆうすけ

せみが鳴き大仏様がすわってる

青森県むつ市

成田 賢心

かまくらのむしのなきごえおおきいよ

新潟県新潟市西区

長谷川 健宏

大仏とまわりの若葉まざりけり

東京都世田谷区

横田 琴子

(順不同)